

北の物販大富豪 謁見音声 書き起こし資料

2014年9月11日 謁見収録 No.04



はじめに

◎【推奨環境】

このレポート上に書かれているURLはクリックできます。できない場合は最新のAdobeReaderをダウンロードしてください。（無料）

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

◎【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。下記の点にご注意戴きご利用ください。

- ・このレポートの著作権は『うつ病セルフヘルプトレーニングeスクール』に属します。著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。
- ・このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。
- ・著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。
- ・このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。
- ・このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。
- ・このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。



真田孔明：

あっ、でも本って10,000冊以上売れてるんですよね？凄いんですよね、どうやってそんな売るんですか？

藤村：

タイミングが良かったと思うんですよね

真田孔明：

最初の本が10,000冊？

藤村：

最初 うん

真田孔明：

次の本が

藤村：

5,000冊 たぶん

真田孔明：

でも売れてますよね

北の物販大富豪：

タイトルがあれや、国際自由人

真田孔明：

国際自由人！

北の物販大富豪：

大体ね、日本のねえ、ねえ、入る仕組みを壊したわけ、ほんとは病気じゃなくて、一服盛られるとる

真田孔明：

国から！

北の物販大富豪：

人間てそんなやよ、本当に・・・ あのさあ、奥さんが孔明殺すなんて簡単なの、砂糖漬けにするか塩漬けにするか



藤村：

あ～

真田孔明：

あはは

北の物販大富豪：

どっちかにすると、こっちなら糖尿病、こっちやったら脳梗塞、決まっとる訳いく道が

真田孔明：

なるほど

北の物販大富豪：

それぐらいになるの、特に政府に反発すると、前後ろのどっちにもいけない

藤村：

どうしたらいいですか？

北の物販大富豪：

どうしたらいいのは、わからないけど、やっぱ国際交流でしょ

真田孔明：

国際交流

北の物販大富豪：

そうそう交流して 日本には人を入れる、日本からは企業を誘致して、清く正しく美しく、これがやっぱ人間の基本ですよ

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

こういうのは2行、世のため人の為、最後は自分のためだ！

一同：

笑

真田孔明：

薬はね、確かに表向きには、世のため人の為ですよ



藤村:

あ〜うまいっすよ

北の物販大富豪:

そやる？キャッチフレーズは上手くいっとる訳よ、名前が優しくいっとるから

真田孔明:

みんな覚えやすい お医者さんも

北の物販大富豪:

ここだけ聞いてると、なんか本当善人のような気がしてきます。

だから他の先生から聞いたのと会ったイメージが全然違う、普通は、なんか青白い顔してさ、
なんか文学者みたいな、「いいやつなんだよあれは」って、こう先生方みんな会って友達の先生言っとるんや

北の物販大富豪:

その聞いた先生は、名前が優しく純情やから、「あの社長は優しく純情ですから先生大丈夫ですよいい人ですよ」と聞いたのに、会ったら色黒の奴が出てきて、全然イメージと違ったって

一同:

笑

真田孔明:

ぐわっとした気配がある！

北の物販大富豪:

鳥肌が立つようなやつがきた

北の物販大富豪:

後は、時間とか約束とか金の事とか、きしっとしてると、後は同じなんやて、威圧感も徐々に薄れてきて 笑

北の物販大富豪:

後はほう、先生のいいところ見つけて、いいところ伸ばしてやればいい

真田孔明:

なるほど



北の物販大富豪：

金余ってるんだから細かい事言わない、10%ぐらいでいいんだから

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

「元本保証、厳しかったらそのマンション、ショッピングモールでも何でも先生の抵当に入れておいてね、先生3億であれ1個買えるのだったら、ただ見ゲームですよ」

北の物販大富豪：

この言葉だけでもね、「いや他の先生にそんなことやってるの?」「いやしてないよ」「じゃあ、僕もいいですよ」だいたいほとんどの人は、気い下がるわけ、だからうちの担保はいつもキレイな訳

真田孔明：

あ～

北の物販大富豪：

後は実行犯だから、実行犯てのは凄いのよ、勇気、実行、行動。行動しなきゃ結果は生まれないのよ

真田孔明：

はい

北の物販大富豪：

1番大事なのは結果なのよ

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

だから孔明この間、発表したいって書いてあったから、それは皆、孔明をうらやむだろうし、あの孔明があれば3億とったら腹立つの本当に、3億持ってた奴は1番腹立つだろうに

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

そんなもんなんや、だから逃がした魚は大きい、1年分損したやん



真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

どうしてそなん我慢できの？それも聞いていて知ってった分、自分がなんで買わなかった？ まさしく後悔先に立たずや

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

人間工学じゃなく力学や、レバレッジやからね

一同:

笑

北の物販大富豪：

そう言うところ、上手たったら、藤村さんの今度の本でも、空想の世界やから、俺から言えば空想の世界

一同:

笑

北の物販大富豪：

だから、ほ～ですよ、みたいの事こう書くけど、実行犯でないもんで、最後の1行足らんのよ

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

世のため人の為、自分の為とは書いてねえやん、どこを読んでも書いてねえやん、株は・・・株で儲からなくても為替だけで儲かるみたいな事が書いてあるんやで

真田孔明：

うん



北の物販大富豪：

凄いな～と思ってさ、このまえロックワールズきた時、ベンツの横で俺にどう言ったと思う？

「社長、孔子とはどう思われますか？」言うて、孔子の事全く知らないのかと思って1通りの事パッパ～とゆうたやん、うち帰って本買うて読んだら、俺の言った事がみんな書いてある！

一同：

爆笑

北の物販大富豪：

あれ読んで判ったのは、まるっきり実行しないから、実行犯じゃないんだよ、毒を盛って人にビール飲ませたら人は死ぬよとこう書いてある、後ろから千枚通しでここを刺すと人は必ず死ぬと書いてある、したことないから

北の物販大富豪：

最後の1,2がな、全部にないんや！全部にない！

真田孔明：

うん あ～

北の物販大富豪：

今日はあれやから2人に質問やけど、マレーシアで海外で、あんたたちは会社を作ったらどうやこうやって、たくさん書いとるやろ、あれどなん？

真田孔明：

マレーシアで会社を作るのは、あんまりね・・・金融も引っ張れないんで、なかなか意味が無いと思いますね

北の物販大富豪：

でも、みんなそんなこと書いとるやね2人で、会社を作って、どうたらこうたらこうたらどうたら言うて

藤村：

でも東南アジアを攻めるのであれば、いいと思いますけど、あの実際に日本で実業があって、東南アジアのマーケットに展開したいという企業にはいいと思いますけど

北の物販大富豪：

あ～



真田孔明：

●●さん（北の物販大富豪）から教わってから、法人の意味っていうのが僕の概念変わっちゃってんで、金融っていう・・・そうすると意味がなくなっちゃんで・・・全部が、昔は節税とか、そっちの方だったじゃないですか

真田孔明：

どっちかという、なんかその日本から出て、いかにコソコソ外国でせしめるかっていう

北の物販大富豪：

いや、だから、それをあんたたちが書くから、頭が痛くなるよね、国からしたら脱法行為だもんね

真田孔明：

そうですね、それを推奨するのはね

北の物販大富豪：

だから、この間言ってたかった？藤村さんに言ったのかな？東京都港区の市民税が3分の1になったんやよ

真田孔明：

う〜ん 3分の1

北の物販大富豪：

おかしくねえ？じゃあ、後の3分の2はどこ行ったの？みんなさあ、自分の資産売って、バ〜ンと売って・・・あんたの得意な資産バ〜ンと売って、みんなマレーシア来て、みんなゴルフして遊んどるわい

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

マレーシア来たら相続税も・・・やる？

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

で、自分の子供や孫に今金やってとるやろ、危機やで、全部裏から、マンション買うお金も親が子にやってる、孫にも適当にこうやってる、日本の税務署は攻めたいけど、MM2Hビザ持つとるやろ、わしらも持つとるけど、あれ持つとるんで、攻めてこられん



真田孔明：

海外にちゃんという証明ですもんね

北の物販大富豪：

そう、だからどうしようもない、だから非国民だ、それを誘導しとるんやから

真田孔明：

たしかに最初は、そっちの発想だったんで、それが海外で色々活用法があったんですね

北の物販大富豪：

そうそう、それを推奨しとるん、そこで日本の国も同じ事を考えて、まてよと・・・今はもう税務署にマレーシアは全部開示するよ、シンガポールも・・・

真田孔明：

香港もですよ

北の物販大富豪：

そう、全部開示、スイスも開示

真田孔明：

そうですね、しかも全部ネットでみれちゃうんですよ、公開されちゃうっていうか・・・

北の物販大富豪：

なんでなっちゃうか知ってる？マレーシアにも金貸してるやろ

真田孔明：

ああ～

北の物販大富豪：

出さないと金回さないよ、こうやるんやて

真田孔明：

あ～金貸業ですね、日本はもう

北の物販大富豪：

この間、孔明は300兆しか金貸しとらんと思ってた言う

真田孔明：

日本のほら・・・公開されているやつは銀行とかが知っているやつは300兆だった、海外に



北の物販大富豪：

380何兆だったかな？この間、確か新聞に公表したのは・・

真田孔明：

そうです

北の物販大富豪：

1,000兆超えとるのや、詐欺や、黒田さんの時代が来たら、もう、ねえ、黒田さん曰くは、もうQE3までいきましょうと日本も、アメリカのように

真田孔明：

おお〜っ

北の物販大富豪：

倍々ゲームやてね、印刷して印刷して印刷して、でアフリカでもどこでもいいの、資源のある国は、まず担保があるのと同じやから

真田孔明：

資源

北の物販大富豪：

そう資源、ガスと油、それからレアアース・・全部やる、そこから押していっとるわけや、今度のミャンマー、知らんやろ金銀は出ないんやけど宝石が出る

真田孔明：

あ〜

北の物販大富豪：

高いやつ、赤と青と・・・・・なぜね、サファイヤとルビーとエメラルド、あと安い石やけど、大量に川に流れてくる、翡翠

真田孔明：

翡翠、人気ありますよね

北の物販大富豪：

そういうのが、1番取れるとこや、洪水がおこるやろ、今日みたいにだ〜っと、子供たちが川で泳ぐと足に何か引っかかって持ち上げたら光ってた、それを埋めた大きな仏陀、行った事ある？



真田孔明：

僕ですか？ ないですね

北の物販大富豪：

ないの？ たとえば、これがタイの仏陀やったら、これ以上にでかい、大きさ比較すると・・・
これが無数に建っとる

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

この国は、みんなお布施が何かといったら金箔がお布施やから、金箔を・・・小さいこんな金箔
を買って、仏陀に貼付けるわけ、みんな周りはタイル張り土足は一切駄目、土足は銃殺刑や

真田孔明：

へ～

北の物販大富豪：

はっきりしとる、だからさ日本は何を狙っているかといえば、油とガスとかおるみたいやし、
日本人が1番好きな光ったもんがあるやろ？で、今度バッジどもは・・・

真田孔明：

バッジ！

北の物販大富豪：

兵隊を連れて、またミャンマー入りする、そんなやで

真田孔明：

それでODAする場所を探してですね、貸し付け付きで！

北の物販大富豪：

そうそうそう、まず、おそらく電気ね、1番足らない道路、橋、あとは電力

真田孔明：

日本は橋、得意ですもんね、あっちこっち、やっぱありますよね、新興国、日本が作った

北の物販大富豪：

本当そうなんやて、なんか俺の話を聞いていると嘘かなって思うけども・・・



真田孔明：

いやいやいや

北の物販大富豪：

真実はそこにしかずだ

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

で、1番上手なのは、まずは餌撒く、あめ玉1つ投げて・・・日本からあめ玉来たって、その親方が舐めるんや

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

あまいやろ、もっとあめ玉欲しいと思うやで、「もっとあめ玉（ODA）貰えませんか？」というから、「いやODAは難しいけど、円借款でおねがいします」こう言うやて

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

これで、契約成立やで、これアメリカの得意な、国際法律のもとでやったらODAやったって、ひっくり返らない

真田孔明：

う〜ん、円借款になってますね、全部、やっぱみると・・・ODAって

北の物販大富豪：

そうやろ、結局最初の1個だけは、あれよ、あめ玉はODA

真田孔明：

無償であげる・・・

北の物販大富豪：

その何百倍も貸すから全部利息



真田孔明：

決済者は別に痛くないんですよ、国のあれだから・・・どうせ

北の物販大富豪：

そうそうそう

真田孔明：

で、個人で貰ってるんですよ、色々

北の物販大富豪：

そりゃせて、政治家はだからそれで引き取るんだよ

真田孔明：

引き取る！

北の物販大富豪：

だから、利権に手を出したら危険やよってなるんだよ、それを、みんな自分の利権にしてる訳やから

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

さっきのあんな1番甘い思想のシステムは、あれ、作った時はどの学校も、東大医学部も京大も慶応も早稲田も全部回った

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

どっかの偉い人が、「これじゃあ、うちの商売は利権が旨くないから入院の日数を減らせ」と、そこを、ちょちょっと絞ったんね、これで終わり

真田孔明：

笑

北の物販大富豪：

これで、みんな借金、借金ずくめ



真田孔明：

ポイント判ってますよね

北の物販大富豪：

だからポイント判ってる人が、蛇口の栓を締めるんやから、たまらんよこれ

真田孔明：

本当、頭いい、知れば知る程国って頭いいですよ、ほんとにね

北の物販大富豪：

だから、俺は2人に言うから、国が1番頭えがんでええや、それをこうひっくり返して見えとらん、普通は

真田孔明：

末端の人程、国はバカだと思ってますよね、政治家バカだと

北の物販大富豪：

だからそんなバカな奴が、選挙の度に何億使って選挙に出る訳がない

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

昨日ちょうど、ここの別の話をした、藤村さんは、バッチつけている人が1番清く正しく美しいと言うとんのや

一同：

笑

北の物販大富豪：

そんな節操のない人と話していると、俺の方が頭おかしくなる

一同：

笑

北の物販大富豪：

いや、この1つの現実というのが解っているだけで全然違う

真田孔明：

う〜ん



藤村：

四柱推命のあのシステムは完成したんですか？

真田孔明：

あっ してますよ、はい

藤村：

1度みてもらいたい

真田孔明：

はい

藤村：

●●先生は、なにを言っているか難しくて・・・

真田孔明：

だから今はほら、全部一緒にやっています、内蔵みてもらって、僕が全部四柱推命みる

藤村：

ふ～ん

真田孔明：

結構、予約がね殺到したんですよ、あれ

藤村：

へ～

真田孔明：

何も案内してないんですけど、本当は・・・

北の物販大富豪：

孔明 金儲けなんやろ

真田孔明：

いえ ぜんぜんまだ、努力しないと取れない

北の物販大富豪：

ちょっとしゃべると、すぐ金儲けにぱっと変えるから



真田孔明：

いえいえ

北の物販大富豪：

転換するのが早いね

藤村：

あ～

真田孔明：

その代わり、●●さん（北の物販大富豪）のお話頂戴して、ピッと浮んでですね、さっそくちょっと提案して、年内なんとか稼ぎながら・・・年越せないからね

北の物販大富豪：

変換能力は速いもんね

真田孔明：

いえいえ全然・・・でも先読みは、やっぱり出来ませんよね、この先読みってのは、人から聞いて・・・

北の物販大富豪：

あのね、癖のない人はね、先読みなんて出来るわけないのよ

真田孔明：

あ～なるほど

北の物販大富豪：

そんなもんね、当たるも八卦当たらぬも八卦なものでさ、ね、そんな夜泣き見たいなものでさ、あてにならん

真田孔明：

笑

北の物販大富豪：

全部、結果だけ

真田孔明：

はい



北の物販大富豪：

案外、医者にその占いみたいなやつ良いかしんないよ

真田孔明：

医者に・・・

北の物販大富豪：

生年月日となんで判るの？名前で・・・

真田孔明：

生年月日だけでわかります

北の物販大富豪：

ほんと！

真田孔明：

時間がわかれば、もっと判るんですけど、時間がわかんなくてもだいたいわかります、どのタイプかぐらいわかります

真田孔明：

生まれた日が、やっばずれていくと少しずつズれていくんですよね、本当に、その通りの特性になっていきます、やっぱ、不思議なことに、これが僕、こんなに当たんなかったら、はまっ
てないですよ

真田孔明：

で、今例えば、コンサルティングサービスを月4万円ぐらのやつに経営者が、だいたい8人
ぐらい入っているんですよ、その中の全く会ったことのないスタッフのことを生年月日だけポ
ンと教えてたら、この人こういう人ですよなって言ったら全部当たっているんです、やっぱ、
向こうもびっくり

北の物販大富豪（妻）：

本当に！

真田孔明：

よく、お会いしてないのにわかりますよね、みたいな、例えば、後継者誰にするとか・・・絶対
渡すと裏切ったり・・・裏切るというか、勝手に自分なりに作り替えちゃう人がいるんですよ、
それ悪くもなく、別に、悪気なく、その人に渡すと会社が違う物になっちゃう

一同：

あ～



真田孔明：

結果的に、親からすると、裏切ったになっちゃう

一同：

あ～

真田孔明：

それよりは、忠実にやるこっちのほうがいいですよとか、面白いですよ、これ、大まかなタイプですけどね

北の物販大富豪：

俺だからね、1番嫌いなのが、御札（おふだ）

真田孔明：

はい 嫌いそうですもんね！本当に！

北の物販大富豪：

いない

真田孔明：

わかります

北の物販大富豪：

何となくこう、自分が受け入れることが出来ないわね、考えたら行動人間やる、そしたら、俺の人生俺のもんだ！みたいなこと思っとるから、なかなかね

真田孔明：

そうですね、この人は、まさにそこも占い通りで、ここ大嫌いな人、こっちにあって5角形でいうと、ここでここにあって、大嫌いなんですこれ、お互いに

北の物販大富豪（妻）：

う～ん

北の物販大富豪：

俺は、なんかそれぐらいのタイプやね、おまえは知ってた？

北の物販大富豪（妻）：

いやいや、だってわかんない



真田孔明：

だから僕、●●さん（北の物販大富豪）に占いのこと、あまり言わないじゃないですか？ 笑

北の物販大富豪：

この前、なんか肝臓と腎臓が僕のあれから見たら強いとか・・

真田孔明：

強いですよ、それは相対的にメチャクチャ強いですね

真田孔明：

もともとのポテンシャルはありますよね、資質と後やっぱり内蔵、親からもらった内蔵っていうのがありますよね、そこが微妙に携わって、変わってきますよね

北の物販大富豪：

ちょっと考えたら、麻薬よね、これだけの酒を・・ 昔は毎日毎晩やからね、5時からあれなら1時2時まで飲んでたから、今考えたらおかしいよね

真田孔明：

後は、この頭の回転が、ねえ、若いやつ僕らより早いですからね 笑

北の物販大富豪：

そう？

真田孔明：

はい、僕なんか言われて、後から、あっなるほどなるほどって言うね、あれがあるんですけど

北の物販大富豪：

孔明は真面目やから、あっあの電車の乗らんといけんかなと思っても、次の電車来たらそっち乗るタイプ

真田孔明：

そうです、僕そっちです

北の物販大富豪：

そやる、俺みたいなのは即決タイプやからまあええやろ間違っても、ってバ～ンと

真田孔明：

先に乗っちゃうんですよね



北の物販大富豪：

そうそうそう、違っとったら料金払わんでもええわちゅうタイプや、ここに、この投げやりな、この性格があるからさ、気楽に動いてる・・ものは沢山考えるよ

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

今日、2人こう見ると、普通は2本の考えなの、こっちは人は3本に考えないとダメなの、ひどい時は5本に考えないと、1つの事をやで

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

だから、糸が絡み合うように頭ぐちゃぐちゃになって来る、孔明さんは2つ、こうやってきたらYの字で考えて立ち止まる

真田孔明：

立ち止まりますね

北の物販大富豪：

立ち止まる、僕の場合は立ち止まらない、どちらでもいい

真田孔明：

でも、それ感覚でちゃんとタッチしてるんで、一瞬で

北の物販大富豪：

そう瞬時

真田孔明：

瞬時で

北の物販大富豪：

そうやな、危険を察知する感覚は早いな

真田孔明：

早い



北の物販大富豪：

なぜ危険を察知できるかて、学んでないから、野生のまんまなん

真田孔明：

昔の人間が持っていた、この・・

北の物販大富豪：

そうそうそう、狩猟民族の動物的な反応なのや

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

だから2人は、藤村さん特にそう、全部ピヤ〜と決めて（でわなく）

こっちも思いついたから・・どっちかな〜どっちかな〜、なんでやろ〜なんでやろ〜というタイプや

真田孔明：

たぶん●●さん（北の物販大富豪）も四柱推命と同じような感覚で、人決めてると思うんですよ、お前社長とか、これを僕たちは生年月日で一致するねってだけなんですよ

藤村：

あ〜

真田孔明：

だから元々見てパッとわかってるんで、一緒なようなもんですよ

北の物販大富豪（妻）：

感が働く

真田孔明：

そう、感で見てるんで、僕たちはそれを生まれた年で決まってるんだねって、理論してるだけで・・

北の物販大富豪：

ただ俺の場合は、ほとんど感のや

真田孔明：

感のですね



真田孔明：

多分ね、四柱推命で見ても合ってる人事してると思うんで、全部、話昨日聞いていると、社長はこういうタイプでっていう、銀行が好きな奴

北の物販大富豪：

それはそうやね、本当はそれそうやったねん

真田孔明：

まさに、ほら、僕がバンダイのときに、お客さんみんな華僑の大富豪だったんですよね、その人達は術を使ってた、それを・・・社長はお前とかなんとか、でも、やっぱりね銀行担当をHSBCから引っ張ってきてて

北の物販大富豪：

はいはいはい

真田孔明：

その人も、香港大富豪も、同じタイプなんですよ、この人ビジネスやらせないで、でも1番給料あげてるんですよ

北の物販大富豪：

金借りて来るからよ

真田孔明：

そう、借りて来る

北の物販大富豪：

最初言うたやろ、貸してもらって・・・そういう人は会社で金稼ぐよりも、ロットで取って来るんやから、金もらったんやから、そういう人が1番金稼ぐ、結果多く

真田孔明：

僕も不思議に思ってたんですよ、最初、なんでうちの商品を売買するだけで、右から左に・・・なんであんな大豪邸に住めるんだ？20億とかの・・・それでね、一緒に事言ったんですよ 上場絶対したくないって、上場するのに何の意味があるんだ？ってったんですよ、むこうは

北の物販大富豪：

意味ないやんか・・・ でもね、1代目の人が、なんで上場するかっていうと、俺はここまでやったよというものを残したいわけよ



北の物販大富豪：

ところが、2代目になると、そんななんでバカくさいことを俺がせんといかんのって思うから、2代目は、後継者は、やっぱ東大出とかさ京大出と慶応とかになるのよ

真田孔明：

う〜ん、その場合は、いろんな人が集まって来るから上場した方がいいですよ

北の物販大富豪：

そうそう

真田孔明：

バンダイも銀行に売り渡しちゃいましたもんね、UFJの人達に・・石川県出身ですけどね、あれも・・

北の物販大富豪：

さっきのあの投資ファンドも、なぜか去年の「孔明俺、1ヶ月ハワイに行っとるから」言いに行ったやろ、あんとき何となく、なんかもうキレが・・文章のキレが、無くなってきとるな、そう思ったんや、その手前に酒も飲み過ぎとったから、お前なに言っとんお前、ちゃんと自分の買い方教えて、引っ張らなきゃ、最後切れそうだよ

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

いや、俺の判断でそう思ったから、俺は発表して、みんなにまず金をつかませるか

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

ね、つかませて、あんときは、だから「買え〜」ってあんたが言うて、それがもし実行した人が、「孔明さんのお陰です、自分はこっだけ儲かった」ともし発表する人がおったら、やっぱあんたの格はあがる

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

そう思って言ったの、教えた俺には私利私欲はない、基本的にはボランティアや



真田孔明：

はい、でもまあ今回はつかんでもらえる 笑 モレックパイン3代ぐらいは あの ちょっと
笑 まずは・・・

北の物販大富豪：

簡単そうだけど、そういうところを俺は、実行犯のようにさ、今のやつで、日掛け月掛け心が
けで引っ張って、ネットがちょうど来るまで引っ張った

真田孔明：

ふ～ん

北の物販大富豪：

次、そこで、また新しい電車を・・・

真田孔明：

ふ～ん

北の物販大富豪：

この間までは、あれはローカル線だったやと、今度は新幹線に乗せますよと、こういうような
発想でやった方が面白いじゃないか

真田孔明：

あ～

北の物販大富豪：

言うたらさ、みんな子供やから、やっぱローカル線よりも新幹線乗ってみたいなのとこんな感
じ

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

で、その次は、今度は本当の4~500キロ出る奴です

真田孔明：

あ～



北の物販大富豪：

次の目的地はジェット機です、人間がさ・・物を運ぶ・・船で運ぶようになったやねん、だから船ってゆうのは物凄く重宝されたわけや、それが文化変わってから今度エンジンが出来たやろ？昔は帆を立てさ、物を動かしたろ？

北の物販大富豪：

あれから、エンジン特にモーター、これ全部モーター文化やてね、扇風機作ったのが始まりなんかやろ？で洗濯機が出来て、冷蔵庫が出来て全部モーターやね、後はブラウン管が今はもう小ちゃくなって目に見えんほどになってんやけど

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

だから、その、江戸時代の物を今持ってきてもダメなんや、今の物も来年はもう違うな

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

だから、新しい情報工学を知っていて、それを発表してやることは思わんと

真田孔明：

はい

北の物販大富豪：

だから、ようあなたが書いてる未来を先取りするという文章にイコールにならないと

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

だからABCはイコールやてのはその事を言っている

北の物販大富豪：

文章の書く力はあるたは本当やから、それぐらいにやっぱ、あとは日本の為に・・わかった？

真田孔明：

日本の為に



北の物販大富豪：

日本の為に、たくさんの人にファンドをとらせて、ファンドで儲ければ全部あれ日本に20%づつ落ちる！利益の、誰が1番儲かる？

真田孔明：

国！

北の物販大富豪：

そやる、国家公務員みたいなもんや

真田孔明：

国家公務員よりも稼ぐと 笑 国のために！

北の物販大富豪：

そりゃ当たり前や

真田孔明：

国に上納しないといけないですね

北の物販大富豪：

結局ね、要はデータベースは得するところはね、犯罪者でもさ、税金沢山納めとけば、特に俺みたいなのはモデルタイプやねん、悪い事もするけども税金たらふく納める、これって、最終的には情状酌量される

真田孔明：

あ～

北の物販大富豪：

そうやる、もう莫大な税金納めとるんやから

真田孔明：

う～ん確かに、税金納めてない人は銀行からそもそもお金借りられないですからね

北の物販大富豪：

そやる、ほでね俺を止めると1番誰が損するかというと銀行損するやろ？国は税金入らん銀行は返済しないって丸損やん

真田孔明：

う～ん



北の物販大富豪：

金っていうのは、日本円って言うのは、日本の国の物なんやから、個人の物じゃない

真田孔明：

はい、みんな借りてるだけですもんね、全ての国民が・・・

北の物販大富豪：

紙を借りて遊んどる、逆にだから、誤解すると・・・まあ5階と6階は紙一重しか違わんというけれど、藤村さんはだから6階におるん・・・

北の物販大富豪：

1つ下がれば5階になって、4階から1こあがれば5階どちらも同じじゃない？どの位置におるかというのをハッキリわかることが1番大事なこと

北の物販大富豪：

だから、迷うなんて選択は普通ないんや、わしらの感覚で迷う・・・迷うとの方が難しい

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

迷う材料がないんやから

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

俺が道行ってさ・・・車で、ぱっと走ったら行き止まりになったんや、すぐそのモレックパインの、行き止まりになったらUターンして帰ってくればいいやん！それが俺の考え方

北の物販大富豪：

で、どこかに曲がれって書いてあったらまた曲がって、笑 どちらでもええから、左に曲がるならやっぱ左に曲がれ、右に道があったとこで回ってけ、道は永遠につながる

北の物販大富豪：

ダメやったらバックしましょってのが考え方としてこうやからこう前出る事に・・・だから全然違うでしょ？バカやから会社作らん趣味やない、会社作る事が趣味なんや



北の物販大富豪：

結構バカな事も瞬時に思いつくんや、今度エンタープライズ名前ええなと思ったらさ、会社、地域は野村にあるからダーツ 「野村エンタープライズや！」これハッと名前つけてた 笑

真田孔明：

笑

北の物販大富豪：

本当に

北の物販大富豪：

昔、テレビでさ「ジャッカルの日」ってテレビでやったんや、なかなかいいな～んで終わって寝ようかなと思った瞬間に、あっ、次の会社ジャッカルの日にしたい、でもおかしいなって

北の物販大富豪：

落ちて、ジャッカーで、ジャッカーにしたんや みんなそんな感じや、富士インターナショナルはちゅうと 1番高く上りたい、富士山がええな、俺の知っとる限り日本では1番高いと

北の物販大富豪：

・・・じゃあ富士インターナショナルにしとけよって、こんな話やからね、酒の飲みながら司法書士がやる、今度の会社、社長それずっと考えてたの？いや今思いついたから作っておいてくれ

北の物販大富豪：

こんな感じや、いつもだから会社作るのに3日かからんね、3日間あれば作れる、だから未練残すな金残せじゃ無いけど、税務署に追われとるとか全部捨てる

北の物販大富豪：

やめる、全部辞めるときは官報書かんといかん、不良債権あったら困るけん

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

官報抱いて1年間しぱりあるんや、全部、官報代もかかるんやで、官報みたことある？ 新聞ぐらいの・・・ 倒産した会社、廃止した会社、整理清算会社、でもやめるのに1年かかるけど



北の物販大富豪：

作るのに3日やで、どっちが早い？ほとんど発想が、あんたの好きなドラゴンボールあの発想なんや、だから「星見つけたらラッキー」みたいなもんや、ヒットになったらああ良かったなヒットに出て

北の物販大富豪：

振らなきゃさ、バット振らなきゃ当たらへんやろ、そなん会社いっぱい作ってさ色んな事やるときゃあさ、どっかで当たるやろ？

真田孔明：

う〜ん

北の物販大富豪：

この軽い発想

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

何をしようかって、名前3日もかかっている奴に何も出来ん

真田孔明：

笑

北の物販大富豪：

いやいや、本当やで、そんなもんね奥さんに「会社作るん、どんな名前好き？」聞いたらその名前つけときや

真田孔明：

爆笑

北の物販大富豪：

何でもええんや、わからんだら子供に聞いて、聞いた名前を変える、何でも嫌だったらチェンジできるんや、3万円出したら、上場は3万以上だけど、会社の名前チェンジしていいんだよ

真田孔明：

ああ



北の物販大富豪：

1回、孔明知ってるやろ、酒飲んで帰って寝たら、次の日、登記簿謄本変わってしまっている、そんなことに、大体こだわりを持つ事自身の方が、俺から言うと無駄

北の物販大富豪：

みんな思ってる、資本金入れんのか？あれね資本金なんて見せ金に決まっておるがな、あれ見せ金なんやで？

北の物販大富豪：

昔は、昭和50年これもなかったんだよ、要は銀行に預金として納める必要がなかった

真田孔明：

う～ん

北の物販大富豪：

俺その時10万円持ったから、一気に100万円作った・・銀行には、ホラ吹いてさ「お金貸してくれ、お金貸してくれ」言うて、貸してもらっやん

北の物販大富豪：

融資受けたから、貸してもらったから返さんと・・そういうタイプやった、そうすると・・40年の実績と共に返すとまた怒るから・・金は返さんでもいいなんて言ってるさ

北の物販大富豪：

あんたそうやって間違っただけを人に教えるからみんな倒産しとる言われる

一同：

爆笑

北の物販大富豪：

倒産した人は金が返せんで倒産したんで、俺が言ったから倒産しとる訳ではないんや俺言うてる

真田孔明：

黒字経営できないから倒産したって事ですよね

北の物販大富豪：

そうそう、俺・・結構簡単に制度教えない、金なんて貸してもらったんだから大事にもってなさいよ・・ここまで、きちつと言わんと、「大事に持ってなさい」使ったらダメよみたいなこと言っとる、でも皆飛んでいった



北の物販大富豪：

それは、だからあんたが言った赤字で飛ばしてたんや

真田孔明：

よくでも、ず〜っと黒字経営できますよね、これが凄いと思いますよね

北の物販大富豪：

関係ないやで、こんな簡単な事がわからんのや、やっぱ大学出やね

一同：

爆笑

北の物販大富豪：

俺なんかさ難しい事ようわからんけど・・・あのねえ、金借りる人は引き算が出来ん人

真田孔明：

うん

北の物販大富豪：

ねえ、あれね、いつも言うとりやろ、5から4引いたら1残る、5から3引いたら2残る、これだけ知ってれば、絶対金儲けなんて1番簡単やねん

真田孔明：

はい

北の物販大富豪：

そやろ？3引いてさ経費含めて3なら2残る、黒字になる決まっとるわ、5億やて3億つかえば2億もうけや、そうゆう計算や、おんなじやろ？

北の物販大富豪：

それが出来ないってのは、引き算が出来ないってこと、後に0付けただけやん、俺からいうとね、せやろ？違うの？5円、5億なにが違うの？そなん桁が違うだけやろ？

北の物販大富豪：

よくさ、うちの計理士がさ、なんか、いっぱい字のやつを俺に言うやて、「お前そういう並べて話せんとさ、例えば8億5千、かかった経費が5億千、社長残った3億、どんだけごまかしますか？



北の物販大富豪：

こういう具合に言えや、そしたら俺も腹立たんのや、いくら何の・・・何千円単位まで言うわけよ！お前頭おかしいんじゃないかい？俺の頭混乱するだけやろが

北の物販大富豪：

俺はだから頭のほんとは1桁目だけでいいんやて、2桁目は、もういい加減・・・3桁目は・・・もう関係ない、頭2つが大事なんやて

北の物販大富豪：

「この会社いくら利益出たんだよ？」「3,500万ほど」「じゃ2,500万程なんか落として策を考えて決算とりましょう」で終わり

真田孔明：

ああ

北の物販大富豪：

で終わり、それを何の関係があるの？の話やで、じゃあ決算書で、こっちから税金持っていく？紙かいて？よっぽど詐欺師やあれは？

北の物販大富豪：

で1人の計理士が10社程やってやぞ「どの会社も黒字ですから」って、アホか！黒字にしたのはお前じゃないだろちゅうの！　そうやる？てめえはA4の紙にタイプ打っただけやん

北の物販大富豪：

俺はたまにムカツときてさ、たまにそうやって怒っちゃう、だから、もっと身になる情報持って来いと・・・

真田孔明：

あ～

北の物販大富豪：

この間さ、ファミリーオフィス検索したら、司法書士がさ、今度東京へ行く・・・六本木かどこかに事務所を構えて、●●さん（北の物販大富豪）が来てくれたらお話ししましょう言うて

北の物販大富豪：

「お前電話で返答返答できんのかい」って言うたら、金のごまかし方を本気であえて教えるみたいな事を言うてる、うちは絶対に法律には違反しません、そういうサイトを作っとる

北の物販大富豪：

ファミリーオフィスは、解ってると思うけど・・・わかってる？



真田孔明：

お金持ちの全部資産管理しますよみたいなところ

北の物販大富豪：

そうそうそう、だから、その男がひょっとして抜け道を、ネズミの通り道を見つけたのか、それともただハッターリだけなのか、サイトのしたの項目を読むと香港、シンガポール、スイスの銀行どうちゃらこうちゃらみたいな書いてある

北の物販大富豪：

これも三味線かなと・・・まあ、どうかはね、本当はどうかは解らないんやけど、最近ずっとこう考えてた事は、●さん、●●さん、●●●●●なに今頃・・・俺なんかは10年ぐらい前には、そんなこと、ねえ、発想的にはね

北の物販大富豪：

●●にXつけたら●●●●●や

真田孔明：

1つ 笑

北の物販大富豪：

ほんなの10年以上前からそんなこと考えとる、昔はね、玉まわしやっとなる会社、金を集めるのが●●●●●で、てめえがてめえの会社に融資してしとるんやから立派な詐欺行為やみたいな・・・でもね会社は別やる個人とは別や法人は、だから違法にはならない、ただそうゆうことを僕は酒飲んどって聞いてね、これはXを作ろうと・・・Xだけじゃおかしいなと思って

北の物販大富豪：

俺●●だから●●にXつけてまっちゃん●●●●●にしといてくれって

真田孔明：

●●●●●ってつぼですよ

北の物販大富豪：

凄いいい加減やろ

真田孔明：

いい



北の物販大富豪：

それ聞いた司法書士の先生が、松田って言うんやけど、「社長また、それでいいのほんとに？俺商号変えた事ないやろ、●●●●●にしといてくれ」おきまりや、資本金1,000万でいいわ作っておいてくれ

北の物販大富豪：

でも飲んだる最中にさ、いつもの親子4人、当時は親子4人で作った、ひとり250万だしの掛ける4人や、こんな感じで藤村さん、まったく抵抗無い

北の物販大富豪：

そんなときに、「本店どこにしますか？」って言う、「本店、どっかそこら辺の事務所にしといてくれ」ね、こんな感じ、軽いやね、そういう人はよう言うわね

北の物販大富豪：

「どう考えてるのか全然わからへん」って、そういう失礼な話はないんやと言うんやけど

